

馬頭町立馬頭小学校校歌

創立八十周年記念

勝 承 夫 作 詞

平井康三郎 作 曲



昭和30年 9 月 1 日制定

馬頭小学校 校歌

勝 承 夫 作詞
平井 康三郎 作曲

元気よくたのしく ♩ = 108

mf

1. きもさわやかに すみわたり
2. うでくみあわす ゆうじょうの
3. こころのかねを うちならし

ことりもうたう やまのふる さ と
ながれはきよし かわのふる さ と
はてなくすすむ じちのふる さ と

あおぐやみぞに
むもとながわ
あすのほんの

ひもはえ て きぼうのひとみる あつまるところ
わかあゆ の きはつらつ おどる えいきたつと
はなとさ く ちからとゆめの もえたと



馬頭町立馬頭小学校校歌

勝 承夫 作詞

一 気も爽やかに 澄みわたり

小鳥も歌う 山のふるさと

仰ぐ八溝に 陽も映えて

希望の瞳 集まるところ

幸ある 馬頭小学校

二 腕組み合す 友情の

ながれは清し 川のふるさと

武茂と那珂川 若鮎の

はつらつ躍る 英気の広場

われらの誇 わが母校

三 こころの鐘を うちならし

はてなく進む 自治のふるさと

明日の日本の 花と咲く

力と夢の 燃えたつところ

栄ある 馬頭小学校

作詞者のことば

馬頭に目覚めた朝、先ず私のところを索いたものはあの数限りない野鳥の歌であった。私はその感激を第一節に歌い込んだ。そして少年少女の希望の姿、希望に燃えたつ心情を歌いその集まるところの母校の幸を思つた。

第二節は二つの川の合流点に当たっていると、言う特殊事情、つまり地理的な環境を友情になぞらえて歌つた。若鮎のごときはつらつさのみなざる母校は、まさに誇であると。

時の鐘の鳴つた昔をなつかしく思いだす人が多かった。これは今は聞こえない。しかしおそらくこの年の子供たちは両親からよくこの鐘の話を聞いたであらう。その鐘は心の底にいつも鳴る時の鐘であり、戒しめの鐘であり、励ましの鐘である。その「心の鐘」をここに扱つて故郷と共に進む子供の夢を歌つた。